

「ソロー・ヒル」
に向かう小道
「恵道」



妻の鶴田静さんと「ソロー・ヒル」
の庭で



自家菜園で育てた
オーガニックの野菜

今日は、ベジ気分！

ベジタリアンと大豆は切っても切れない間柄。
少し、ベジで楽しい生活をのぞいてみませんか？

第4回日本ベジタリアン・アワードで「フォトグラファー賞」を
受賞された写真家・エッセイストのエドワード・レビンソンさん
を、加藤裕子をご紹介します。



今月のベジーさん エドワード・レビンソン さん

～写真家・エッセイスト～

●日本在住41年、ベジタリアン歴45年●

生まれたのはアメリカ・ヴァージニア州です。若い頃は
ヒッピー・ムーブメントの影響もあって、アメリカやカナ
ダをヒッチハイクで横断する旅をしたり、ナチュラルライフ
を実践するコミュニティで暮らしたりする中、自然とベジタ
リアンになっていきました。日本に行こうと思ったのは、
自然農法で有名な福岡正信さんの本に出会い、教えるを受け
たいと思ったからでしたが、たまたま入った東京の書店で
ベジタリアンのエッセイスト・翻訳家の鶴田静と出会い数年
後に結婚、日本在住生活は今年で41年になります。房総
半島での田舎暮らしも30年を超えました。

●写真家・エッセイストとして

写真は以前から好きで、大学でも学びました。来日してし
ばらくは庭師や英語教師などをしていたのですが、1990年
から鶴田静の本の写真撮影を行うようになって、写真の仕事
がメインになっていきました。今はピンホール写真を主に、
ショートムービーを撮影したり、エッセイを書いたりして
います。俳句も好きで、「恵道 (Edo)」の俳号で日英バイリ
ンガルの句集もしました。ベジタリアンであることも含め
たナチュラルなライフスタイルが、

僕にとって
の創造の源
になって
います。



レビンソンさん撮影の
ピンホール写真

●自然の恵みと共に 生きるエコ・ライフ●

第4回日本ベジタリアン・ア
ワードで「**フォトグラファー賞**」を
受賞した**エドワード・レビンソン**
さん。妻でエッセイスト・翻訳家
の**鶴田静さん**（第1回日本ベジタリ
アン・アワード大賞受賞）と暮ら
す自宅兼仕事場の「ソロー・ヒル」
は、かつて棚田だった300坪の
土地を自ら汗を流して開拓した場

所に建てられました。夫妻共に
1970年代からのベジタリアン、
ソーラー発電や雨水・井戸水を使
うなどのエコライフを実践するほ
か、自家菜園で育てるオーガニッ
ク野菜を使った自然の恵みあふれ
る料理が毎日食卓にのびります。
「写真家の仕事も畑や庭の作業も
体力が必要ですが、大豆製品は僕
にとって最高のパワーフード。味
も大好きだし、毎日といってい
ほじよく食べています。油をひか

ずにフライパンで焼く油揚げの『ド
ライ焼き』は本当においしくて、
ベーコンの代わりになりますよ」
とレビンソンさん。

「肉とじゃがいも」が主食の典型
的なアメリカ家庭で育ったレビン
ソンさんがベジタリアンになった
のは、若い頃にヒッチハイクで旅
したときに出会ったベジタリアン
たちの影響もあったそうです。「肉
を食べていた子どもの頃、僕は太っ
ていたんですよ。ベジタリアンは



自然の恵みいっぱいの、鶴田静さん手作りのベジタリアン料理。(左から) 冬の具だくさんスープ、いちごタルト、キャベツの豆乳ソース煮、赤ピーマンのナス詰め

写真家としてのレビンソンさんは、**ピンホール写真**をメインに作品を発表しています。

「ハードな仕事が続いて燃え尽き症候群になってしまったとき、大学で学んだピンホール写真に、再会しました。目に映る風景がまったく違って見えて、自分の創造性が再び呼び起こされたような気持ちになったんです」

●写真で光を伝えたい●

お金もかからないし、社会や環境にも良いと週1回ぐらい肉を食べない生活を始めたら、健康にもいいことがわかったので、毎日ベジタリアン食になりました。僕は瞑想もしますが、精神世界の教えでも肉はいらないと言われていました。

キャンプや旅が好きだったレビンソンさんは、大学生のとき「コマシヤリズム(商業主義)の世界を目指すより、自由で精神性の高い生き方をしたい。自然の中で暮らしたい」と思ったと言います。

アメリカの書店で出会った『わら一本の革命』という本に導かれて来日してから40年以上、レビンソンさんは若い頃に望んだ通りの生き方を続けてきました。

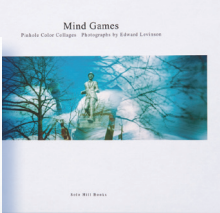
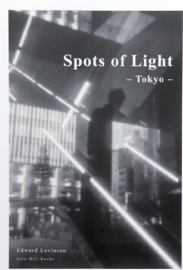
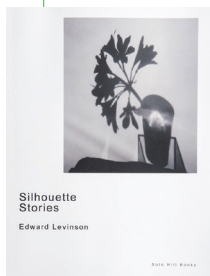


レビンソンさんの作品が多数掲載されている日英バイリンガルのウェブサイト。展覧会などの最新ニュース、写真集や著書の注文、写真作品購入もこちらからどうぞ。

千葉県鴨川にあるレビンソンさんと鶴田静さんの自宅兼仕事場「ソー・ヒル」に併設されたギャラリー見学は予約制(有料)。詳しくは、http://www.solohill.net/edo_photo_gallery_info.html で。
<https://www.edophoto.com/index.html>

ピンホール写真ではレンズを使わず、針穴のように小さな穴で光を取り込んで撮影します。撮影には時間がかかりますが、ピンホール写真のアナログな空気感、高性能のデジタルカメラにはない魅力です。レビンソンさんは国内や世界各地での展覧会を開催するほか、ワークショップなどを通してピンホール写真の魅力を伝えています。

「僕のミッションは写真で光を伝えること」というレビンソンさんの写真は柔らかな光に満ち、「癒やされる」と多くの人々の心をとらえて離しません。



レビンソンさんのピンホール写真集

「自然豊かな田舎だけでなく、エネルギーが感じられる都会も素晴らしい被写体にあふれています。撮影していると、ビルとコンクリートばかりに見える街にも空や木など必ず自然があることに気づかされるんです。現代生活ではコンピュータやスマホに釘付けになりがちですが、ひとりの世界に閉じこもるのではなく、目を開いて自分の周囲にある世界に気づいてほしい。僕の写真をきっかけに、自分を取り巻く世界とひとつになる感覚を味わってもらえたらいいですね」

操作カンタン。らくらく作業

簡易型横三方シール機

少量多品種生産に抜群の偉力を発揮!

- 袋の巾や高さ等は、ハンドル操作で変更できるので多品種・少量生産に最適です。
- 長さの変更は 0mm から自由に調整できますが光電管を使って模様合わせをすると、さらに簡単です。



電源: 単相 100V 12A

包装機械総合メーカー
株式会社 藤村工業

東京都板橋区清水町 4-2
[お問合せ] TEL.03-3961-1361 (代) FAX.03-3964-5295
<http://www.fujimurakogyo.com>

<協会事務局>
〒532-0003
大阪市淀川区
宮原 1-19-23-1317
☎06-6868-9860
<http://www.jpvs.org>



NPO法人日本ベジタリアン協会
加藤 裕子(顧問)
著書に『食べるアメリカ人』など。